サンクコスト課題を用いた高齢者の意思決定に関する研究

○杜 曉旭・増本康平

(神戸大学人間発達環境学研究科)

キーワード：意思決定，サンクコスト，高齢者

The Influence of Aging in Relationship between Emotion and Decision-making

Xiaoxu DU and Kouhei MASUMOTO

(Kobe University)

Key word: decision-making, sunk-cost, elderly

加齢が認知機能や感情に及ぼす影響は多くの研究で検討されている。認知機能については、ワーキングメモリやエピソード記憶、処理速度といった機能で特に顕著な低下がみられる (Ian et al., 2009; Luo et al., 2008; Deary et al., 2009)。一方、加齢が感情に及ぼす影響については、感情調整や感情知能は加齢による低下がみられず、むしろ若年者より優れていることが報告されている (Heather et al., 2010; Levenson et al., 2010)。では、加齢とともに低下する認知プロセスと、低下がみられない感情プロセスの二つのプロセスからなる意思決定では、加齢の影響はどのようにみられるのであろうか。熟考（認知プロセスに依存）を必要とする意思決定課題の場合、若年者の意思決定は高齢者よりも優れていることが報告されている。(Samanez-Larkin et al., 2010; Mell et al., 2009)。一方、感情プロセスと意思決定の関連性に加齢が及ぼす影響を検討した研究はほとんど報告されていない。本研究では、サンクコスト課題を用い、感情プロセスが関与する意思決定に加齢が及ぼす影響を検証することを目的とする。サンクコストとは、行動の結果として迫る損失や負債といった取り戻せない埋没費用を意味し、埋没費用が無駄になることを惜しみ、行動や判断の修正ができず、結果として損失をだし続けるサンクコストファラシーという認知バイアスが報告されている (Kahneman et al., 1984; Arkes et al., 1985, 1998)。

方 法

実験参加者：健康高齢者 41 名 (Mean=70.15 : SD=5.65) が本実験に参加した。

測定項目：認知機能 (WAIS-III の下位検査である数唱、算数、語順整列、符号、記号探し、知識を実施)、感情調整機能 (Emotion Regulation Questionnaire; 吉津ら 2013)、情報処理スタイル (合理性・直感; 内藤ら, 2004) を測定した。

サンクコスト課題：被験者の前に A・B 二つの抽選器を呈示した。どちらの抽選器も一回の抽選に 100 円を支払う必要があるが、色のついた (白玉以外の) 玉ができれば賞金がもらえる。A は色のついた玉がでる確率が 60%、賞金は 500 円であ

り、B は色のついた玉がでる確率は 30%、賞金は 1000 円であった。被験者はどちらかを選択することが求められ、選択した抽選器を最低 1 回は回すことが求められた。被験者は 100 円を支払えば何度でも抽選器を回すことができるが、実際にはどちらの抽選器にも、色のついた玉は入っておらず、実験者は被験者が抽選器を回す回数を記録した。この課題の期待値は A・B どちらの抽選器でも 300 円 (=確率×賞金) であり、4 回以上回した場合にサンクコストファラシーがみられたと判断した。

結 果 と 考 察

ロウリスク・ロウリターンの抽選器 A とハイリスクハイリターンの抽選器 B の選択に、認知機能、感情調整、情報処理スタイルが影響しているかを検討するために、選択した抽選器で群分けし t 検定を行った。その結果、認知機能、感情調整、情報処理スタイルいずれにも群間で有意差は認められなかった。次に、サンクコストファラシーがみられた群とみられなかった群に分け、認知機能、感情調整、情報処理スタイルに差がみられるか検討した結果、感情調整の再評価においてのみ群間で有意差がみられた ($t(39)=2.48, p<.05$; Fig.1)。再評価方略は、感情が完全に生起する前に、感情を誘発する状況の解釈を認知的に変化させることで、感情的なインパクトを変える方略 (Gross & John, 2003) であり、この結果は、再評価方略の利用が、サンクコストファラシーを軽減することを意味している。また、認知機能のいずれの検査得点においても、群間で有意差がみられなかったことは、損切りのようなネガティブな感情

が強く関わる意思決定では、認知機能のパフォーマンスは影響しないことを示唆している。

Fig.1 サンクコストファラシーの有無別にみた再評価方略の得点